

み

みんな

い

いっしょに

な

なな

vol.94

2026年9月20日発行

《問い合わせ》市民協働推進課

☎ 0287 (62) 7019



～安心して過ごせる環境づくり～

自分事で考える防災

ある日突然、大きな災害が起きたら――。

日常は一変し、多くの人が避難所で生活することになります。しかし、困りごととは人それぞれ。高齢者や障害のある方、妊産婦、子育て世帯など、必要な配慮は異なります。だからこそ、性別や年齢、障害の有無など、一人ひとりの違いを踏まえた避難所づくりが求められています。近年は、過去の災害の教訓を踏まえ、避難所は「雨風をしのぐ場所」から「健康と尊厳を守る場所」へと変化しています。

本市ではどのような備えが進められているのでしょうか。



那須塩原市の危機管理課に聞いてみました 01

プライバシーを守る工夫

～居場所を分ける「ゾーニング」とは？～

避難所では多くの人が同じ空間で生活するため、プライバシーが確保されないことが大きなストレスや健康被害につながる場合があります。

過去の災害では体育館での雑魚寝が一般的でしたが、現在は避難生活が長期化した場合、段ボールベッドやパーテーションを活用した生活スペースの確保を進めています。

授乳スペースや更衣スペース、女性専用スペースは、教室や会議室などの別室を活用し、確保が難しい場合は段ボールルームで対応します。

また、高齢者や障害のある方、妊産婦、子育て世帯などは、状況に応じて居住場所を分ける「ゾーニング」を実施し、一人ひとりが安心して過ごせる環境を整え、避難生活の負担軽減につなげています。



※避難所イメージ画像

那須塩原市の危機管理課に聞いてみました 02

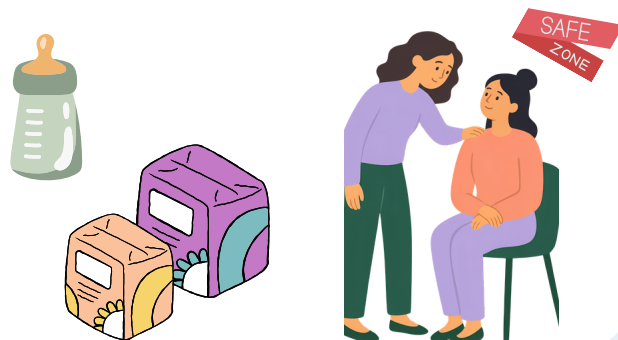
安全に過ごす工夫

～避難所ではどんな配慮があるの？～

避難所では、夜間でも安心して利用できるよう、女性用トイレは照明を確保し、仮設トイレは人目につきやすい場所（プライバシーは確保）へ配置するなど、防犯面にも配慮しています。

また、生理用品や乳幼児・大人用おむつは、女性用トイレや更衣室に配置したり、女性スタッフが手渡ししたりするなど、受け取りやすい方法を工夫しています。給湯体制も整備し、粉ミルクや使い捨て哺乳ボトルも備蓄しています。

さらに、女性特有の悩みやDV・ハラスメントなどは相談しづらいケースもあるため、保健師などが相談に応じられる体制を整えているほか、その他の困りごとについても気軽に相談できる環境づくりを検討しています。



避難所では、多くの人が同じ空間で生活するため、必要な配慮は一人ひとり異なります。今回紹介した内容以外にも、一部の自治体では、LGBTQ当事者への配慮や外国人住民向け相談窓口の設置など、多様なニーズに応える取組も広がっています。避難所づくりに「完成」はありません。過去の災害の教訓を生かしながら、避難所は今も少しずつ進化を続けています。

『多様な視点でつくる、これからの防災』

災害時に必要な物資、支援、避難所での配慮等は、性別や年齢、生活状況などによって異なります。**誰もが安心できる避難所づくり**には、女性をはじめ、**さまざまな立場の人が防災の意思決定に参画することが大切です。**

那須塩原市の令和3年度意識調査「防災等の分野における性別に配慮した対応が必要と思うこと」では、男女別トイレや更衣室、防犯対策、女性や乳幼児、高齢者、障がい者への配慮、男女双方の視点を取り入れた避難所運営などが挙げられ、多くの項目で女性の意見が男性を上回っています。(※1) また、国の調査では、防災会議の女性委員が10%以上いる市区町村は、女性委員がいない市区町村に比べ、生理用品や粉ミルク、乳幼児・成人用おむつ、簡易トイレなどの備蓄割合が高い傾向が見られます。(※2)

本市では、避難所運営委員会の長への女性の登用や、女性役員を3割以上とすることを目標に、平時から防災訓練等を通じた啓発を進めています。女性をはじめ、多様な人が防災の意思決定や避難所運営に関わる一方で、炊き出しや配膳、子どもの世話などを「女性の役割」と決めつけず、**性別に関係なく、できる人・得意な人が担うことも大切です。**

災害が起きてからではなく、平時の防災訓練や地域での話し合いを通じて、男女が共に防災に関われる環境をつくる事が大切です。家庭でも、水や食料だけでなく、生理用品、乳幼児用品、介護用品など必要なものを備え、「**ローリングストック**」を取り入れるなど、日頃からの備えておくで安心です。

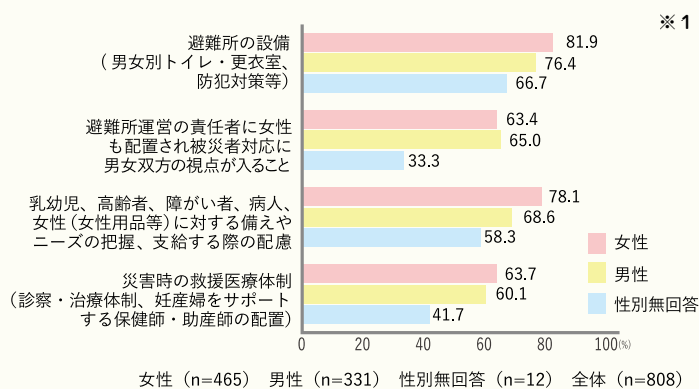
「誰かが備えてくれる」のではなく、「**自分たちのこと**」として考える。多様な声と一人ひとりの備えを地域の防災に生かすことが、誰もが安心できる避難所と、災害に強い地域につながります。

※1 第4次 那須塩原市 男女共同参画行動計画 防災等の分野における性別に配慮した対応が必要と思うこと【R3意識調査】(令和5年度~令和9年度)

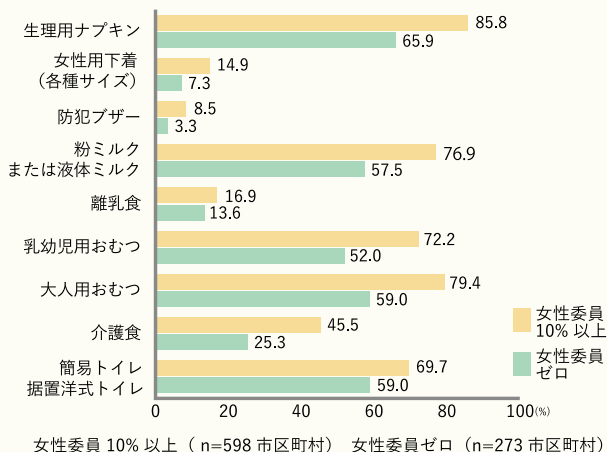
※2 地方公共団体における男女共同参画の視点からの防災・復興に係る取組状況についてフォローアップ調査結果(令和5年5月内閣府男女共同参画局)

男性と女性で異なる支援のニーズ

防災等の分野における性別に配慮した対応が必要と思う事【R3意識調査】



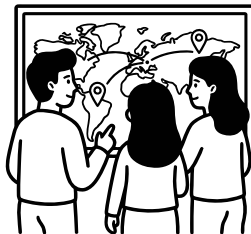
市町村防災会議の女性委員割合と常備備蓄の割合の比率 ※2



1.『全災害対応！最新子連れ防災BOOK——被災ママパパ1648人と作りました』

著者：富川万美 祥伝社

国内で起きた大災害で被災されたママパパの貴重な体験談を載せながら、もし万が一“その時”が起こった時に、どんな行動・対策ができるだろうか考えるきっかけをくれる一冊です。大人ひとりだけでも大変な災害時、子どもと一緒にとなるとそんな事も起きるのか・・・という発見が多くあり、未就学児を持つ親として身が引き締まる思いになりました。ただ「備蓄や防災は楽しみながらすることが一番」という事を軸に書かれており、イラストの可愛さも相まって前向きに防災に取り組もうと思わせてくれます。



2.『今日、地震がおきたら』

著者：アベナオミ 出版社：KADOKAWA

東日本大震災で子どものアレルギーや夜泣きから避難所を諦め、自宅避難を乗り越えた家族の体験を描くコミックエッセイです。電気や水がない日常のリアルな試練を通して、自宅避難に必要な視点が学べます。現在は防災士として活動する著者のコラムも合間にあり、備えへの意識が高まります。



このマークがついているものは
市内の図書館で借りることができます。

男女共同参画の視点で取り組む防災パンフレット

いつ起こるか分からない災害に備えて、地域でみんなが共に支え合う・男女共同参画の視点で描かれている防災パンフレットです。

詳しくは
こちら



女性に対する暴力をなくす運動

毎年11月12日～25日までの2週間「女性に対する暴力をなくす運動」を実施しています。

詳しくは
こちら



「みいな」は市役所、公民館、図書館で配布しています。バックナンバーは市のホームページでご覧いただけます。ご意見や感想をお寄せいただくと幸いです。



みいな 第94号2026年9月発行

企画・編集：那須塩原市 市民生活部 市民協働推進課

〒325-8501 栃木県那須塩原市共壘社108番地2

☎ 0287-62-7019

市民編集委員：佐々木、高根沢、佐藤、小泉